

「《書道博物館》見学会」報告

今年度、東洋史例会として、「《書道博物館》見学会」を行いました。

日時 : 11月16日(日) 14時から

東洋史例会参加報告

博士前期課程一年 篠田裕介

十一月十六日、東洋史の例会として鶯谷にある書道博物館の見学を行った。書道博物館の常設展では主に中国の石碑・墓誌・磚瓦(中国で古くから使われているレンガと瓦)といった石刻や青銅器等や文字の描かれた日用品などが多く展示されており、紙以外に記されてきた文字を見ることができる。また、展示は文字が描かれた石刻等だけでなく、図像の描かれた石刻や磚瓦、青銅器等もある。この書道博物館では書道と銘打っているが、一般にイメージする書道と違い文字をそのものとしてだけ見るのではなく、文字と文字の描かれた物を総体として見ることができる。今回の見学は主にこの石刻を中心とした常設展であった。

石刻には二千年近くも前の漢代のものがあり、表面が磨滅しているため文字が不鮮明で解読の難しいものも多い。しかし、生でその石刻の磨滅した様子を見たときには二千年前に彫られた文字が長い歴史を経て今に在るという感慨を覚えた。石刻の中には現在の漢字と異なる小篆や大篆で彫られたものもある。この小篆や大篆といったものは現在の漢字の基となる古代の文字である。象形文字から漢字へと変遷していく途中の文字であり、象形文字の図像的な要素も残しつつ現在の漢字にも近いため比較してみるのも大変面白い。現在、我々が使う文字とは異なった世界を垣間見せてくれる。

常設展の展示では文字(図像)と文字(図像)の描かれた物をひとつの物として展示しており、文字が読めなくてもあるいは文章の意味がわからなくても楽しむことができた。例えば墓誌である。墓誌は正方形にきれいに磨き上げられた石に死者の業績を讃えた文章が彫られているが、その文字は素人の私が見てもきれいである。またその文字はきれいに区切られたマス目にひと文字ずつ収められ、文字がきれいに等間隔で並んでいる。これらのきれいな石にきれいに並んだ文字を見て、当時この墓誌というものが副葬品の中で非常に重要視されていることが想像でき大変面白かった。

この書道博物館は書道に興味のない人でも楽しめるので一度行ってみることをお勧めする。私はこの書道博物館に行った後、年賀状を篆刻で書くことを決めた。